

シーニックバイウェイ北海道 今後の制度設計に向けた評価について

1．評価の目的

シーニックバイウェイ北海道の理念『美しく個性的な北海道づくり』の実現に向けて、次年度以降の活動をより良くするための各種評価を試行するとともに、評価結果を活動団体等にフィードバックし、事業の効果的推進を図る。

2．評価の基本方針

各種評価の実施にあたっては、下記に示す各種診断を実施する。その内容・方法の検討にあたっては以下のような項目毎に検討していく。

(1) 診断実施者

自己（活動団体）診断 現状チェックによる再発見・再認識
第三者（検討委員会、有識者等）診断 客観的診断とアドバイス

(2) 診断対象

地域資源 現在価値と潜在価値の把握と診断、地域活動による地域資源の質の向上の診断
活動団体 活動内容、活動体制、起業化の可能性
プログラム（シーニックバイウェイ北海道全体） 今後検討

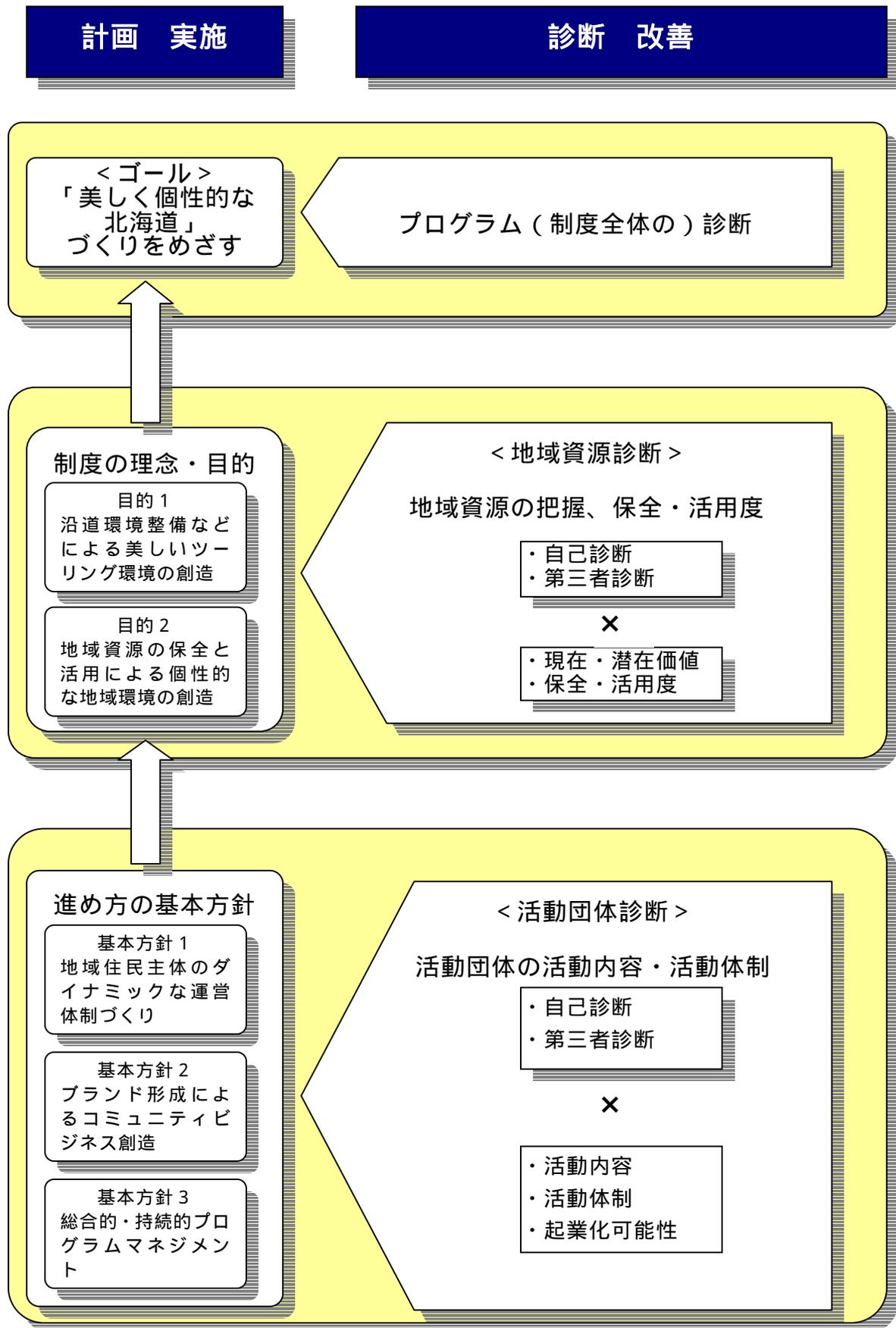
表1 診断イメージ

		評価実施者	
		自己評価	第三者評価
評価対象	プログラム	-	
	コリドー計画運営	地域資源 (活動団体活動エリア内)	
	活動団体		

(3) 診断手法確立までのスケジュール

- ・平成15年度は別紙に基づき試行し、次年度に向けて診断手法を精査する。
- ・地域資源評価については、7月より現在価値と潜在価値の診断を試行。
- ・活動団体、プログラム評価については、活動結果を踏まえつつ年度末までに診断表（案）を作成する。

・ 図1 シーニックバイウェイ北海道における診断の全体像



3. シーニックバイウェイ北海道 地域資源の診断について

(1) 診断のねらい

診断を有意義で効果的なものとするためには、以下のような視点が必要である。

活動団体が活動エリア内の地域資源を適正に把握し、潜在資源の発見や再認識し、活用していくための助けになること

第三者(検討委員会や専門家)がルート全体の地域資源を適正に把握し、できる限り客観的に診断し、その結果をもとに適切なアドバイスができるようなものにする。

(2) 診断項目

米国シーニックバイウェイプログラムにおける6固有特性¹から、考古学的資源を歴史資源に含め、5分類で検討。『美しく個性的な北海道づくり』のためには、美しい景観づくりは重要な要素である。そのため景観資源は必須の診断対象とする。

表2 地域資源診断項目(案)

地域資源の分類	地域資源(細目)	地域活動による地域資源の質の向上
景観資源	<ul style="list-style-type: none"> <自然景観> ・山岳、湖、河川、滝等地域を代表する良好な景観 <人文景観> ・農村や丘陵風景など地域を代表的する良好な景観 ・夜景、シンボルロード等の都市景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道緑化や花壇整備 ・沿道清掃 ・景観阻害要因低減のための活動 ・ビューポイントの創造 ・イベント(フォトコンテスト等) ・美しい街並みづくり
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境(地形、地質、植生、野生動物等) 	<ul style="list-style-type: none"> <地域資源保全活動> ・維持・保全活動
文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り ・特産品、地場産品(工芸品・陶芸品) ・郷土料理・レストラン ・人的資源(郷土史家、著名人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習や旅行者マナーの向上ための活動 ・寄付等による保全資金集め
歴史資源	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡、文化財 ・博物館 	<ul style="list-style-type: none"> <地域資源活用活動> ・ビジターセンター運営 ・インタープリター(自然ガイド、観光ボランティア)事業の実施や人材の育成
レクリエーション資源	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉施設/温泉地 ・レクリエーション施設 公園、スキー場、ゴルフ場、キャンプ場、テーマパーク他 	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアレクリエーション事業の実施やインストラクターの育成 ・情報提供活動(マップ、HP、案内板等)

¹ 米国の固有特性の分類は、景観、歴史、自然、文化、レクリエーション、考古学

(3) 検討の考え方とスケジュール

診断方法検討の基本的な考え方は以下の通りである。

平成15年度は上記 ~ の診断項目で、診断シートを作成、それによる試
行を行い、診断対象や診断方法について検討する。

コリドー基本データ

NO.	ルート名	〒	住所	メンバー人数	活動エリア				コリドーストーリー
					道	号線	区間: から	区間: まで	
1	ルート			800	国道	999号	×町	村	本ルートは、 国立公園を通過し、名峰××山を眺望し……

総合評価総括表

総合評価点は評価委員が記入

総合評価(5段階A~E)

評価軸(5つの分類軸)	総合評価点(5段階A~E)	評価	
景観資源		シンボル景観	シンボル性が強い ◆————◆ 景観のシンボル性がない
		道路から見える美しい風景	美しい風景が多い ◆————◆ 道路景観が美しくない
		風景が美しい道路	景観道路が多い ◆————◆ ない
		風景を見る施設・ポイント	施設・ポイントが多い ◆————◆ ない
		景観阻害要素	少ない ◆————◆ 多い
		活動団体の景観保全活動成果	顕著 ◆————◆ ない
自然資源		自然環境源(観光資源台帳)	特A級:5点、A級:3点、B級:1点/—資源 加点方式
		活動団体の自然資源保全活用活動成果	顕著 ◆————◆ ない
文化資源		祭り・イベント	観客数実数、道外客数加点 特別加点: 評価委員の現地調査
		郷土料理・レストラン	ここでしか食べられない、手に入らない ◆————◆ ない
		文化系観光施設	施設規模、利用者数の実数加点方式 特別加点: ?
		人的資源	インストラクターなどに活用されている ◆————◆ 人材がいない
		活動団体の文化資源保全活用活動成果	顕著 ◆————◆ ない
歴史資源		遺跡、文化財	特A級:5点、A級:3点、B級:1点/—資源 加点方式
		博物館	施設規模、利用者数の実数加点方式 特別加点: ?
		活動団体の歴史資源保全活用活動成果	顕著 ◆————◆ ない
レクリエーション資源		レクリエーション施設	施設規模、利用者数の実数加点方式 特別加点: ?
		アミューズメント施設	施設規模、利用者数の実数加点方式 特別加点: ?
		活動団体のレクリエーション資源保全活用活動成果	顕著 ◆————◆ ない
総合コメント(評価者記入)			

活動団体への資源診断シート案

評価実施者：活動団体

評価対象：地域資源(活動フィールド)

活動団体基本データ

NO.	団体名	〒	住所	メンバー人数	活動エリア				活動内容
					道	号線	区間;から	区間;まで	
1	研究会			35	国道	999	××村	町	・道道沿線沿いに、花壇整備 ・沿道の草刈り等の維持管理を実施。 ・ファミリーフォトコンテスト、開花予想クイズの実施。 ・道道拡幅に伴う市街地再整備、街並み景観づくりへの提案活動。

活動エリア内の地域資源(魅力的だと思われるもの)について以下の項目ごとに記入して下さい。

Q1. 活動エリア内の景色・風景について(景観資源)

どんな風景・道路・施設・ものがあるか記入して下さい

活動の中でそれらをよくする、改善する、活用するものがあれば、記入して下さい

9

地域のシンボルとなる景色・風景

道路から見える美しい風景

風景が美しい道路

風景を見る施設・地点(展望台など)

美しい風景を壊しているもの(看板・電柱など)

景観保全のための活動

Q2. 活動エリア内にある美しい自然、観光施設や温泉など自慢できるものについて(景観以外の資源)

どんな資源・施設、イベントなどがあるか記入して下さい

活動の中でそれらを活用するものがあれば記入して下さい

美しい自然(湖、花、紅葉など)

温泉地・温泉施設

観光施設(博物館・テーマパークなど)

祭り・イベント

郷土料理・レストラン

地場産品やその販売所

レクリエーション施設(スキー場、キャンプ場など)

名物人物・達人

その他自慢できるものがあればなんでも

4 . シーニックバイウェイ北海道 活動団体の診断について

(1) 診断のねらい

本診断を有意義で効果的なものとするためには、以下のような視点が必要である。

活動団体が日常の活動内容のチェックや、活動を継続していくために必要な事項についてチェックでき、継続的な活動のための助けになること
第三者(検討委員会や専門家)が専門的立場から活動団体の活動内容や体制について、できる限り客観的な診断ができ、診断結果が活動団体の今後の活動に対するアドバイスとなるようなものにすること。

(2) 診断項目

診断項目を設定するにあたっては、活動団体の活動継続性を重視し、表3のような項目を設定する。

表3 本制度に向けた活動団体診断項目(案)

	診断の視点	診断項目
活動内容の診断	地域資源の保全・活用をどのような活動により実現するか。	景観資源の保全・活用のための事業内容となっていますか。
		地域資源(景観資源を除く)の保全・活用のための事業内容となっていますか。
		活動達成目標が明確に設定されていますか。また、その目標は妥当ですか。
		地域と連携して実施する活動ですか。
		中長期的な視野を持つ活動ですか。
		活動の独自性がありますか。
活動の継続性の診断	実施可能か。	活動内容は目的の実現のために最適な方法ですか。
		ルート全体のイメージと大きく乖離していませんか。
		継続的に活動をしていますか。
		活動予算は妥当ですか。
		活動が十分に実施される体制ですか。
		組織経営の知識・経験を持っていますか。
	ビジネスとして成立可能か。	継続的に活動する資産を持っていますか。
		継続的に活動する人材を持っていますか。
		ターゲットは明確に設定されていますか。
		サービスのマーケットは十分見込めますか。
		他の事業者に対して優位性を持っていますか。
		性能、価格は満足出来るものですか。
サービスを継続的に提供する体制・管理が出来ていますか。		
販売戦略(PR 等)は練られていますか。		

(3) 検討のスケジュール

平成 15 年度は、上記診断項目で、診断シート(案)を作成し、年度末にそれによる診断を行い診断方法について精査する。